

会議名 地域研究委員会文化人類学分科会（第25期・第1回）

日時 令和3年1月8日（月）17:00～19:00

会場 ビデオ会議にて開催 zoom ミーティング

出席者： 高倉浩樹、小長谷有紀、三尾裕子、綾部真雄、石井美保、伊藤泰信、上杉富之、北中淳子、窪田幸子、慶田勝彦、湖中真哉、斎藤成也、關雄二、曾我亨、竹沢泰子、田村うらら、中谷文美、野林厚志、速水洋子、俵木悟、松田素二、丸山淳子、宮崎恒二、安井真奈美、山極壽一、横山智（敬称略）

議題

（1）委員の決定

・委員長 高倉浩樹、副委員長 三尾裕子、幹事 伊藤泰信・湖中真哉

（2）昨期の活動報告

1 高等学校の教育内容の充実に向けた文化人類学の役割

2 地理総合への副読本、公共の指導要領の検討と提言（多文化共生など）

3 文化人類学の活用領域に関わる意見交換

社会的課題への対応：医療人類学、無形文化遺産、国内の地域博物館との連携、さらに、WIPO（世界知的財産所有権機関）等との連携

・デジタル化やビッグデータ科学の時代における文化の理解

・人類学の最前線ではなくむしろ基盤的知識の効用の発信、さらに区分化されない中等教育の社会科そのものの再構想

社会発信

・自然人類学との協働について

・公開シンポジウム「コロナ時代におけるフィールドワーク教育をめぐって」（自然人類学分科会・地域研究基盤強化分科会等共催）2020/9/19（266人）

派遣事業

・国際人類学民族学連合2020年会議・小泉潤二連携会員の派遣（オンライン開催となり派遣中止）

（3）今後の方向性についての議論

・文化遺産・地理教育・医療等を中心に、文化人類学の知見にもとづき、どのような政策提言が可能か検討するとともに、実務者と研究者が交流する機会をもうけ、また社会発信を行う。

・三つの課題に係わり関係省庁や企業などの担当者に話を聞き、文化人類学に何が求められているのか学ぶ機会を作る。

・関連する分科会と合同の提言ができるかどうかをさぐる

・サブグループを作り〔遺産（俵木、関）、地理（湖中、横山）、医療（伊藤・北中）〕どのような計画が可能か検討する。